

特別賞 青年海外協力協会賞

同じラインに立つために

石川県立金沢錦丘中学校 三年 馬淵 佑香

授業で、学校へ行けずに仕事をする女の子の話を知った。その事が気になり、インターネットでそのような子供について調べていると、「世界には初等教育を受けられない子供が一億千五百万人に達する」という文を見つけた。その数の実感がわかなかつたが、現在の日本の人口より少ない程だと考えると、とても大きな数だと感じた。そして、世界の大人の四分の一が非識字者だと知って、「もし自分が非識字者だったら……」

と、想像してみた。しかし、教科書を読めない以前に、教科書が配られることす

ら無い国がある。このように、国ごとに違うレベルで考えなくてはいけないが、その差が生まれる事が地球で起きている大きな問題だ。私は当たり前前に恵まれていると思ひ、だからその人々の生活をリアルに想像できない自分が悔しかった。現地の人々になってみたら、その人々が日常でどんな事に困っているかも分かるのに、と思つた。

そこで、現地へ赴き活動をしている団体を調べた。各々のホームページや文献等には体験記がある。その中に、子供の教育に関する仕事を行っている人が、笑顔で子供達と写る写真があつた。これを見て、私にもできることを考えてみた。

同じ地球に住む者として、世界が足並みを揃えて歩くための義務は、現状を知ることや解決のために何ができるかを考えること、特に行動できる力を持つ私達の課題は、更にそこから実行に移していくことだ。

調べてみると、いろいろな専門的な技術を持った人が発展途上国に貢献している。世界では多くの技術が必要とされている。日本には専門的な技術もたくさんあり、教育の制度も整っているので知識も得られる。日本だからこそできることは、まずは充実したメディアで現状を正しく広く伝え、多くの人々の心に訴えていくこと、そして発展途上国に技術や知識を伝えることだ。

私ができることは、人々の教育に貢献できるような知識を身に付けることや、募金などで子供達に援助をすることだと思った。私は、私の立場からできることがあるのだと思って嬉しくなった。発展途上国への協力のために知識をたくさん身に付けて、子供に必要な教育を受けさせたい、と思った。この夢を叶えるために、私は今から、与えられた充実した教育を当たり前として受け取るのではなく、未来への一歩だと考えて真剣に取り組もうと考えている。